岩手県有数の農業水路「鹿妻穴堰」

鹿妻の水は、水田や畑・果樹園にも利用されています

鹿妻穴堰が造られたのは、盛岡に城を築き始めた2代藩主・南部利直の時代、慶長4年（1599）と言われている。水田の開発にあたり、町の西部に広がる平坦地に水を引くためだった。

堰の開発には、鉱山師・鎌津田甚六が任命された。鎌津田甚六は雫石川の流れを調査し、2年を掛け、「剣長根の岩山」と呼ばれる固い岩が川に突き出ている場所に、長さ6間（約11m）、幅1間（約2m）のトンネルを掘り、取水口とした。この場所の選定は、現在の土木工学を持ってしても的確なものと言われている。穴堰にはこの堰が潤した地域「鹿妻」の名が付けられ、鹿妻堰奉行・堰繕普請奉行が、堰の管理や改修を行うとともに、新田開発を進めていった。明治以降、堰の管理や開発のために水利組合が設立され、現在の鹿妻穴堰土地改良区に引き継がれている。現在、水路は37路線、全長131kmとなり、農業用水の確保だけでなく、大雨の時の排水路などとしても活用されている。

（もりけん本スーパーver.2より）